

資料4-4

# 自動車リサイクル法 の運営状況について

2008年10月22日

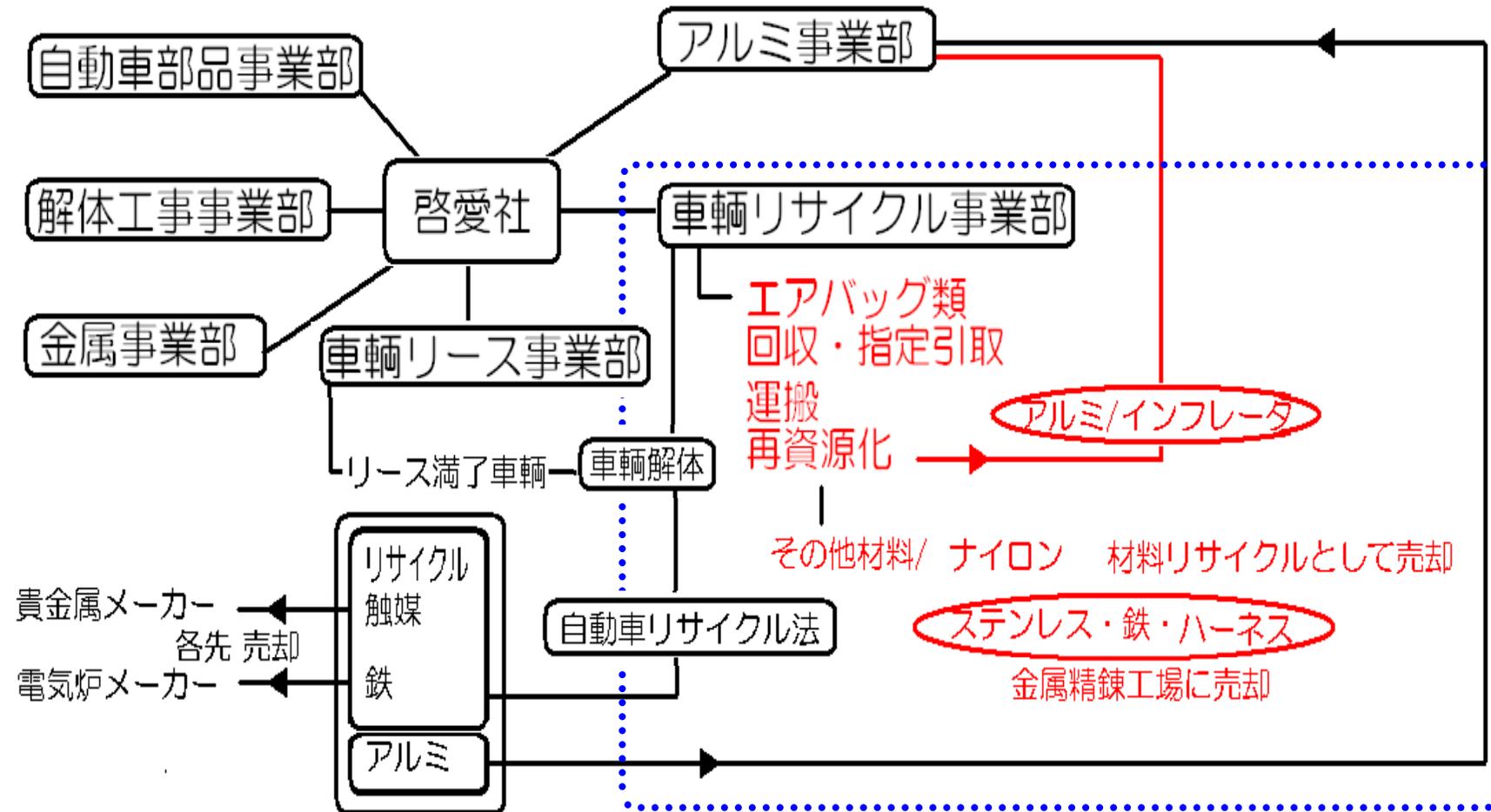
株式会社 啓愛社



# 会社概要

- 社名 : 株式会社 啓愛社
- 本店 : 東京都北区岩淵町24番11号
- 本社 : 東京都北区岩淵町38番23号
- 資本金 : 1, 905百万円
- 連結売上高 : 539億円（19年度3月）
- 従業員数 : 600名
- 6事業部制 : アルミ事業部/解体工事事業部  
金属事業部/車輛リース事業部  
自動車部品事業部  
車輛リサイクル事業部

# 事業形態



# 車輻リース事業部

## 社有車をリースにすると、財務・労務面でさまざまなメリットが享受できます

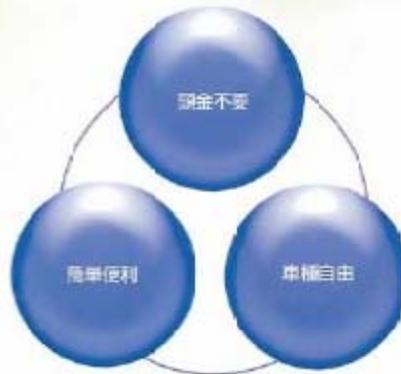
クルマは、「所有する」からシステムを「利用する」へ。シフトチェンジされてきた経営思想。

日本では1963年にカーリースが導入されましたが、冬々増加の一途をたどり、2003年3月には267万台にものぼっています(国土交通省調査)。

いまではほとんどの企業がクルマのみならず、オフィス機器から生産設備まで、設備投資にリースを利用しています。多くの企業がカーリースを導入したのは、車両管理業務などをアウトソーシングすることによって、財務面、労務面で多くのメリットがあるからです。

### 車輻リース

企業活動、お客様様まわり、納品などビジネスにクルマは欠かせません。社有車が増えるに連れて、購入車両の管理・維持など経済的にも人件費にも負担がかかってきます。「K-Iオートリース」なら、これらの煩わしい業務を全て代行し、貴社の専断プランにお任せした一台をお届けいたします。もちろん、マイカーとしてご利用になれる力にも最適です。



### ■経済的メリット

- 車両購入時に多額な資金が不要です。  
クルマを直接購入する場合に比べ、リース料はごくわずか。もちろんローンよりもダンゼンお得です。
- リース料は毎月一定です。  
リース期間中のリース料は、物価の上昇や経済変動に関わりなく一定です。
- リース料は経費で処理できます。  
毎月のリース料は、必要経費として損金処理できます。何台所有しても課税対象にならず、合理的な節税が可能です。

### ■人的メリット

- 面倒な手続きはすべてお任せください。  
リース申請にかかわる手続きは、K-Iオートリースが全て行いますので、お客様に煩わしい手間はお掛けしません。
- 車両管理や維持もラクラク。  
税金・保険の特付、定期点検と車検、修理の手配など煩雑な仕事から解放されます。
- 万一の事故でもご安心ください。  
事故処理、示談交渉なども代行します。もちろんリース車は各種保険加入なので安心。(当社による保険付保のみ)

### ■2タイプの選べるリース方法

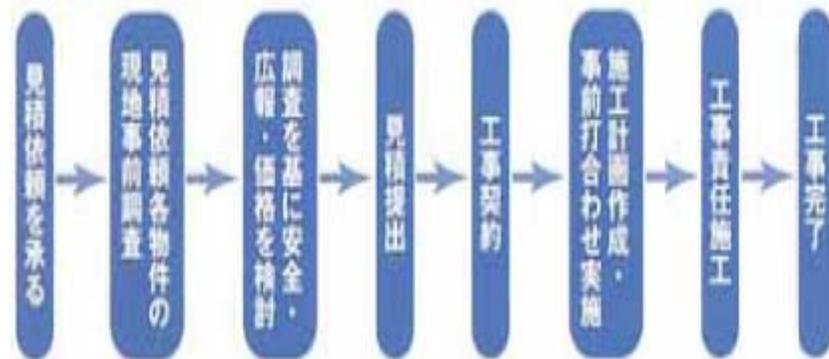
- ファイナンスリース  
リースするのはクルマだけです。車両の管理・維持のほとんどをお客様が負担するシステムです。
- メンテナンスリース  
車の管理・維持に関する業務の一切を当社が負担するシステムです。別名サービスリースともいわれ、当社では大型車、フォークリフト以外はすべてこのメンテナンスリースをおすすめしています。

項目	内容	ファイナンス・メンテナンス	
		リース	リース
車両代	車両本体	●	●
残価保証代	過渡、エアコン、その他特別装備	●	●
社用車代	シートカバー、サイドバイザー等	●	●
運転経費代	燃料、駐車、整備、車検、下取り	●	●
事故車代	事故修理代	●	●
取替料	取替料のみ	●	●
管理料	点検点検及び車検料	●	●
事故責任代	事故修理代	●	●
任意保険	車両保険	●	●
ロ	法人、別荘、業務用	●	●
車名	任意車名指定	●	●
定額点検	定額点検、メーカー指定	●	●
一括修理	一括車検修理	●	●
事故修理	事故時の修理代(保険受給)	●	●
過月品代	バッテリー、ペダル、不要修理代等	●	●
タイヤ、チューブ	一定基準、約定により交換	●	●
オイル交換	オイル、フィルターの定期交換	●	●
車検修理	税関車検修理のアドバイス	●	●
保険金請求	損害会社との関係管理	●	●
ロードサービス	JAF加入	●	●

# 解体工事事業部

明確な責任施工体制のもと、  
経験豊富な自社専門技術者が責任もって工事にあたります。

## 工事フロー



# 金属事業部

## 金属スクラップは、資源循環型社会のリーダーです

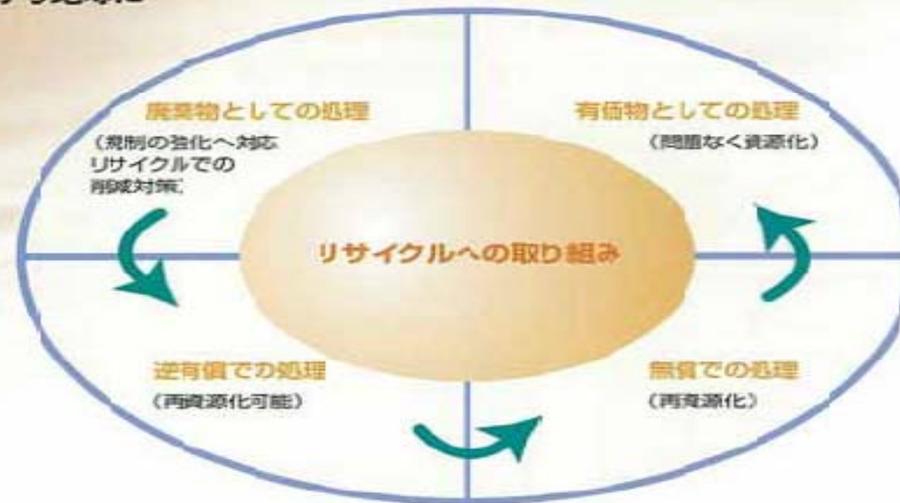
私たちの周りにはさまざまな鉄鋼製品があります。常に生まれ変わり続ける鉄を資源とし、お客様のニーズに応え製鋼工程での新たな命を吹き込む為のお手伝いをしています。

建物解体工事・加工メーカー発生端材・樹脂類・非鉄金属も資源リサイクルという観点から地球に優しいリサイクルを推進しています。

不要物の資源化は、  
循環型社会の育成に必要不可欠です。

企業活動を行うことで、どうしても不要物は発生します。この不要物を廃棄物にせず「資源化」することで、トータルコストの削減とゼロエミッション達成の手段としてチャレンジしております。まず現状を教えてください。素敵なアイデアをご提供致します。

逆ねじ活動の推進(現状の見直しと  
改善対策の実施)



# アルミ事業部

アルミニウムは、酸化皮膜を形成する為酸化しにくい特性があり、何回もリサイクルする事が可能です。

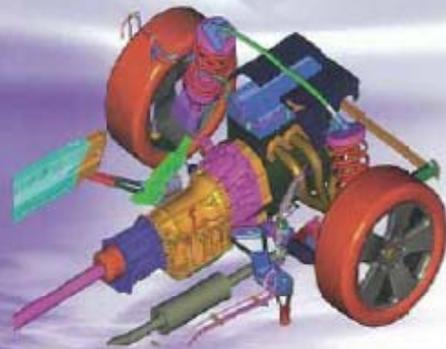
アルミニウムをリサイクルする事は、循環型社会の構築を目指している中で大変重要な役割を担っていると共に環境負荷の低減にも役立っています。

啓愛社では、特殊な設備と高度な技術を導入し、信頼と満足していただける、製品を提供しております。



# 自動車部品事業部

中厚の深絞り物からブレーキブースターの様な寸法精度の要求される製品まで、幅広いニーズにお応えします。



最新のCAD/CAE/CAMシステムによる構想段階からの設計段階3Dデータに基づく企画、実験、解析データの提供、サイマル活動に試作、金型の、納期短縮優先ニーズに対応した小回りの効く技術サービスを提供します。



プレスから鍛造、組み立て、機械加工、カチオン塗装までの一貫生産を行っています。



自動プレスライン



トランスファープレスライン



ロボットによる組み立て作業の自動化ライン



ワンボックス車のルーフも塗膜可能なカチオン電着ライン

## 製品



各種径ピストン



アオリブラケット



ハイブリッド車の電源カバー



ドラムブレーキ用バックプレート



ブレーキブースターボディ



サスペンションブラケット



アールサスペンションプレート



各種弾力性向上部品  
コイルスプリング入りタワー  
クロスバー  
メンバーステイ

## KI USA



ディーゼルエンジンマニホールド



コンバータ冷却カバー

## 製品の一例



# エアバッグ類の再資源化に係る弊社の変遷

**1997年**

**「使用済み自動車リサイクル・イニシアティブ」策定**

使用済み自動車のリサイクル率向上と再利用しやすい  
設計・製造への取り組み

**1999年10月**

**(社)日本自動車工業会による**

**「エアバッグ・インフレーター回収・処理システム」参画**

未作動インフレーター回収・処理の自主取り組み

**2002年**

**「自動車リサイクル法」制定**

**2005年1月**

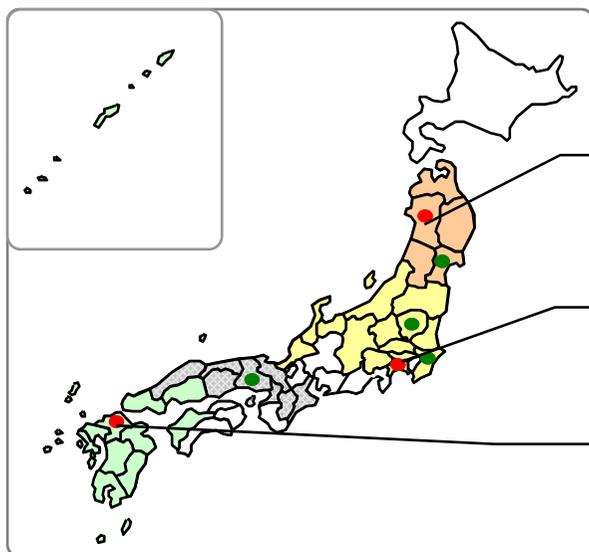
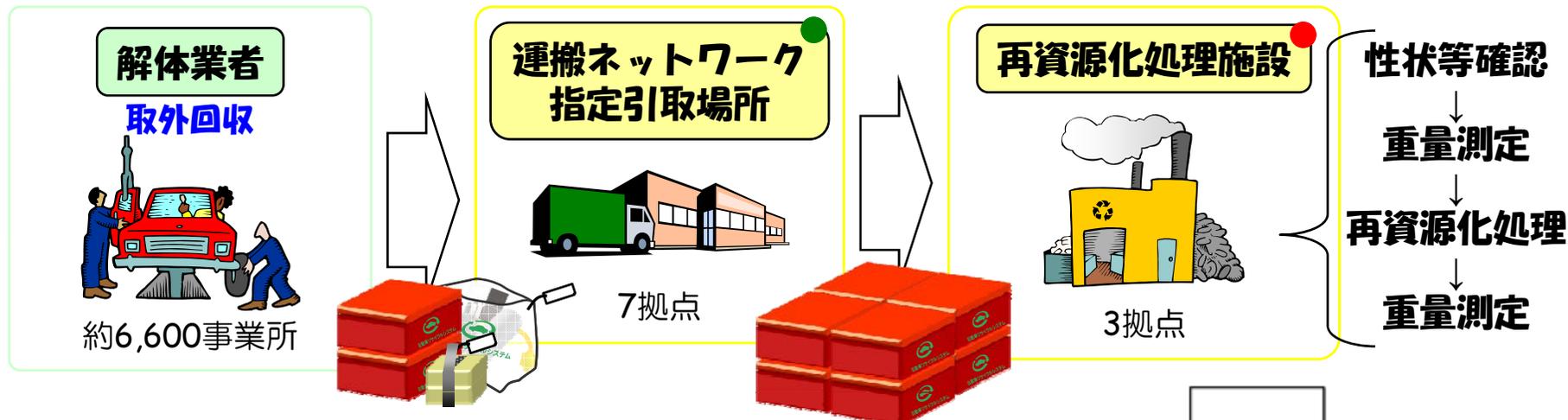
**同 本格施行**

自動車メーカー等との委託契約に基づき

再資源化施設として稼働

併せて、運搬ネットワーク・指定引取場所としても稼働

# エアバッグ類の処理体制



秋田工場  
(5県)

金沢リサイクル工場  
(1都13県)

九州リサイクル工場  
(11県)

アルミ・ハーネス  
ステンレス・鉄  
↓  
**売却**  
↓  
金属精錬工場

すべて売却することで  
残渣は発生しない

# エアバッグ類再資源化施設

## 〔施設概要〕

- 施設所在 : 秋田工場（秋田県湯沢市）  
金沢リサイクル工場（神奈川県横浜市）  
九州リサイクル工場（福岡県京都郡）
- 処理方式 : 庫内通電・衝撃方式  
専用設計の庫内にインフレーター等を設置し、  
直接通電・衝撃を与え作動
- 処理能力 : 最大 10万個/基
- 設置基数 : 各工場に1基ずつ設置



# 再資源化業務における取組み

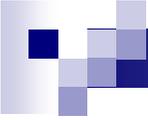
- ・ 環境面に配慮し集塵機【煙・匂い】を設置



# 再資源化処理実績

事業所名	2004年度※		2005年度		2006年度		2007年度	
	台数	個数	台数	個数	台数	個数	台数	個数
秋田工場	163	297	3,656	6,143	4,447	7,524	7,475	13,612
金沢 リサイクル 工場	524	829	10,691	16,329	18,806	30,640	26,589	43,879
九州 リサイクル 工場	99	154	3,854	5,323	5,333	7,497	7,584	10,449
合 計	786	1,280	18,201	27,795	28,586	45,661	41,648	67,940

※ 2004年度は、2005年1～3月の実績



# 再資源化事業における課題

- 解体業者におけるエアバッグ類の処理は「車上作動処理」が主流になりつつあり、今後の「取外回収」における再資源化処理体制をどのように維持していくか検討が必要と考える。
- 現在のエアバッグ類は約95%が金属で構成されており、それらは素材としてほぼ100%再利用されている。また、「車上作動処理」においては解体自動車とともに破碎処理されることからエアバッグ類単体の再資源化重量の管理は割愛されている。従って、「取外回収」においても再資源化重量の管理を除外いただきたい。